

〔巻頭言〕

国際家族看護学会 (International Family Nursing Association) の設立に向けて

広島大学大学院保健学研究科保健学専攻

森山美知子

2007年、暮れも押し迫った12月20日、カルガリー大学家族看護ユニットが発信した「25年の活動の歴史の幕を閉じる」とのニュースが世界を駆け巡った。1982年、カルガリー家族アセスメントモデル・介入モデルで有名なLorraine M. Wright博士の夢とリーダーシップの下、看護師の上級看護実践の教育の場として設置されたユニットが2007年12月31日をもって閉鎖となった。本当の理由は、大学側からの予算の停止、そして、何よりもユニットを運営する後継者がいなかったことだが、25年の歳月の中で「家族看護学を立ち上げ、世界に広め」、その役割は十分に果たしたと述べられていた。

彼女の情熱とリーダーシップ、そして温かさに、私たちはどれだけ恩恵を被ったかわからない。1984年、看護界では始めてとなる家族看護に関する上級看護実践書『Nurses & Families』が刊行された。彼女たちの著作やこのエクスターンシップによって、世界の看護界に、家族を一つのシステム・ケアユニットとしてとらえ、アプローチする方法が広まった。ここで生まれたネットワークは、カナダ、米国、日本、香港、シンガポール、タイ、韓国、スコットランド、英国、フィンランド、アイスランド、スウェーデン、スイス、ドイツ、ポルトガル、スペイン、ポーランド、ブラジル、チリ、イスラエルの国々に及ぶ。このネットワークから国際家族看護学会（学術集会）が生まれ、2009年にはアイスランドの首都レイキャヴィークで第9回目を迎える。

国際家族看護学会（学術集会）は、1988年、カナダ、カルガリー大学で第1回（大会長 Wright博士）が開催された。小さな学会だったが、北米を中心に家族看護に関心のある看護師たちが集まった。1991年には、米国・オレゴン、ヘルスサイエンス大学で第2回が開催された。この学会の中核メンバーだっ

たHanson博士も、家族看護学の本を編集・執筆し、世界中の看護師たちに影響を与えた。臨床家であり、研究者・教育者だったHanson博士も、2007年の夏、完全に退官された。

2007年は、自ら実践し、その実践の中から得た臨床知を理論化／モデル化し、それを世界に広める、そんな原点ともなる巨匠たちが第一線から去った年であったとも言える。家族看護学の一つの時代・創設期一の終わりを告げる出来事であった。

時代をどのように引き継ぐのか。カルガリー大学家族看護ユニット閉鎖のニュースの後、国際家族看護学会を立ち上げようという動きが起こった。時を重ねるように、2005年、Kit Chesla 博士（カリフォルニア大学サンフランシスコ校）がリーダーシップをとり、Kathleen Knafel博士（オレゴン・ヘルスサイエンス大学）、Donna Curry博士（米国ライト大学）、Janice Bell 博士（カルガリー大学）が調整役となって、国際家族看護学会立ち上げの私的な会合が開催され、2008年5月19日、メールで定款案が各国のメンバーに配信された。国際家族看護学会設立に向けての始動である。

この学会（正式名称：International Family Nursing Association, INFAと略す）は、家族ケアに関わる個人や集団が、家族ケアの向上を目指し、研究者・教育者・臨床家をネットワークし、研究や教育、臨床の情報を広く行き渡らせる仕組みを構築し、これらの成果を政策や臨床に反映していくことを使命としている。

家族看護を大切にする世界の看護師たちのネットワークができる。ワクワクする。次の時代を創り上げることは、時代を作り上げてくれた恩師たちへの感謝とそれを引き継ぐわれわれの責務である。